

新潟県上越市の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る疫学調査チームの調査概要
(平成 28 年 12 月 1 日実施)

平成 28 年 12 月 1 日に実施した現地調査の結果、以下のことを確認した。

1 発生農場の周辺環境

- ① 発生農場は平地に位置し、周囲には、湖沼が散在している。また、敷地内にも小さなため池が存在する。
- ② 現地調査時、敷地内のため池では鳥類は確認されなかった。一方、近隣の湖沼では、ハクチョウ類及びガン類が 400 羽程度、カモ類は 3, 000 羽以上（主にマガモとコガモ）が確認されたほか、ハヤブサ 1 羽の死体が確認された。
- ③ 発生農場には全 10 棟の高床式鶏舎（第 1 号鶏舎のみウインドウレス鶏舎で第 2～10 号鶏舎は開放鶏舎。全て成鶏舎。）があり、発生鶏舎は農場入口からは比較的遠い第 8 号鶏舎である。死亡鶏は、南側の窓側に多く確認され、散在していた。

2 管理者及び従業員

- ① 発生農場の管理人（以下単に「管理人」という。）によると、農場には約 30 名の従業員がいる。
- ② 管理人によると、従業員は事務所横の更衣室で更衣・履き替えを行い農場に入っている。

3 農場の飼養衛生管理

- ① 鶏舎横に飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋がなされて、野鳥の接触や糞の混入の可能性は低いと考えられた。
- ② ポンプにより汲み上げられた井戸水が、消毒後、給与水として鶏舎に配水されている。
- ③ 車両の農場への出入りの際には、車両消毒槽及び下部・側部からの消毒薬噴霧による消毒を行っている。
- ④ 管理人によると、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウトのつど内部の消毒を行っている。なお、鶏舎周辺の消毒は行っていない。
- ⑤ 管理人によると、鶏舎 2 階は全鶏舎通路で連結しており、主に 4 号鶏舎から入場するが、管理担当者は各鶏舎で専従化している。また、各鶏舎では踏込み消毒を行っている。

4 野鳥・野生動物対策

- ① 開放鶏舎は、外側から、ロールカーテン、金網（マス目の直径は約 5 cm）が設置されており、管理人によると、ロールカーテンは気象状況に応じて開閉しているとのこと。
- ② 発生農場全体としては野鳥等の侵入防止は図られていたが、他方で、鶏舎を囲む金網の破れや壁の破損等が確認された。
- ③ 敷地内ではノネコ、多数のスズメ及びカラスが確認され、スズメの鶏舎への侵入及びカラスの堆肥舎への侵入が確認された。また、堆肥舎裏でカラス 1 羽の死体が確認された。
- ④ 管理人によると、場内でタヌキを、また、場内のため池でカモ類を見かけたことがあるとのこと。なお、管理人によると、鶏舎 1 階からの糞の搬出作業中は扉を閉めていないとのこと、その際にカラス等が侵入している可能性は考えられるとのことであった。

5 死亡鶏の取扱い

死亡鶏は場内で処理している。